

## 「知事とのフレッシュトーク」(令和2年10月9日(金) 青森県立青森南高等学校) 概要

知事が高校生の皆さんとこれからの青森県や自分たちの将来に関して意見交換を行う「知事とのフレッシュトーク」について、青森県立青森南高等学校での実施概要をお知らせします。

生徒による学校全体紹介や英語での外国語科紹介の後、代表生徒と知事が意見交換を行いました。(参加：2学年生徒239名)



### (発言生徒1、2年男子)

私の将来の夢は、システムエンジニアになることです。そのため、プログラミングを勉強したり、IT業界のニュースを観たりするようにしています。

青森県の人口減少問題について調べたところ、県内大学を卒業した学生のうち、約65%が県外へ就職していることが分かりました。この数はとても多いと思います。

そこで、県外へ流出してしまう若者を少なくするために、県内でリモートワークをする方に向けて機材購入などの援助をすれば良いのではないかと考えました。リモートワークをすることで、県内に住みながら全国どこの企業でも働けるし、自由に使える時間が増えるし、子育てしながらでも働けます。

実際にアメリカでは、約4人に1人の割合でリモートワークをしています。日本でも、今般の新型コロナウイルス感染症の影響でリモートワークを取り入れる企業は多くなってきていますが、最近になって知られるようになったものなので、挑戦するのをためらっている方も多いと思います。

青森県の人口減少は著しく、早急な対応が必要だと考えます。知事の御意見を聞かせてください。



### (知事)

将来、システムエンジニアを目指すということで、大いに期待しています。

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、リモートワークのように家で仕事ができる仕組みが一気に進んできていることに、我々も驚いています。こういう働き方を希望する人が増えてきているので、県でもそうした仕組みに関する取組を進めようとしているところです。

### (企画調整課)

青森県の人口減少の原因の一つとして、18歳、20歳、22歳の若者が就職や進学でどんどん県外に行ってしまうことが挙げられます。また、県内の大学生が卒業後、県内で就職する割合は約30%で、県内の大学生の半分くらいが県外から来ているということを踏まえても、少し低いというのが現状です。

そのため、県では、もっと多くの若い人たちが県外に行かなくても、県内で働けるように、「仕事づくり」を進めてきました。生活面でみても、東京に比べて通勤時間は短いし、安くて広い家も建てられます。提案のあったリモートワークにもピッタリですので、いろいろな面で「青森は変わってきた」ということをこれからもPRしていきます。

### (知事)

昔は、県内で働く場所が少なかったのですが、そこからいろいろな企業を誘致したり、創業・起業の支援をしたりして、県内で働く場所を増やしてきました。また、農業も強くして、農家一戸当たりの農業所得が2倍以上になったため、農家になる人たちも増えてきて、昨年度は292人が新規就農者となり、そのうち109人が非農家出身の新規参入者として農業を始めました。



### (労政・能力開発課)

高校生や大学生に対する県内就職支援の取組について説明します。

県では、高校生向けとして、県外就職の割合が高い工業高校で、ものづくり企業PRイベントを開催し、大学生向けとしては、県内や首都圏における企業説明会の開催など、県内企業への理解を深める様々な取組を実施しています。また、県の公式就活アプリ「シューカツアオモリ」や、県の就職情報サイト「アオモリ ジョブ」などの媒体で、県内企業の魅力や求人情報を幅広く発信するなど、若者の県内定着に向けた取組を進めているところです。

### (新産業創造課)

最近注目されているリモートワークですが、まだまだ知らない人もたくさんいる中で、そういうテーマに着目したのは、とても素晴らしい提案だと思います。

リモートワークのメリットは、大きく4つあります。1つ目は、場所にとらわれない働き方が可能になること、2つ目は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策となること、3つ目は、働き方改革が実現されること、4つ目は、緊急時においても事業継続性が図られることです。

現状ですが、7月時点の調査結果でリモートワークをしている人の割合は全国で31%なのに対し、青森県では10.8%と普及が進んでいないので、県としては、リモートワークで県外から人を呼び込み、人口減少対策を強化したいと考えています。

具体的には、県外のリモートワーカーと県内のIT企業を交流させるイベントや、県内に移住してきたリモートワーカー同士のネットワークを形成させるための交流会を開催したり、リモートワーカーの移住に向けた相談対応を行ったりしています。また、県内企業へ普及させるため、相談窓口を開設し、企業にリモートワークの導入に向けたアドバイザーを派遣したり、リモートワークのためのパソコン購入に対する補助を行ったりしています。

**(知事)**

システムエンジニアになるために、どういうことを勉強していますか。

**(発言生徒1)**

プログラミングの勉強をしています。システムエンジニアになった方からは、ただプログラミングの能力があっても、コミュニケーションがしっかりとれないと仕事してもらえないという話を聞いたので、コミュニケーション能力を使う行事やSDGsの発表などに参加しています。

**(知事)**

すごく前向きでうれしいです。そういった発想力を広げていける環境があるっていいですね。将来に向かって頑張ってください。

司会の2人にも聞いてみます。将来の夢は何ですか。

**(司会生徒1、2年女子)**

ミュージカルが好きなので、それに関係する仕事に就きたいです。

**(知事)**

ミュージカルスターになって、青森で大きな舞台をやってくれることを期待しています。

もう1人の将来の夢はなんですか。

**(司会生徒2、2年女子)**

看護師です。

**(知事)**

青森県で働くことは考えていますか。

**(司会生徒2)**

考えています。



**(知事)**

看護師に関する説明を担当からします。

**(医療薬務課)**

青森県では、今後在宅医療のニーズが非常に高まってくることが見込まれるので、ますます看護職のニーズは高まってきます。県内にも看護師になるための大学がありますが、県外に就職する人が多いので、県内で看護師として働くつもりと聞いて、本当に心強く感じました。看護職を目指してこれからも勉学に励んでほしいと思います。

### (発言生徒2、2年女子)

私の将来の夢は、診療放射線技師として病気の早期発見のサポートをすることです。そのために、診療放射線技師について調べたり、医療関係のニュースを見たりして、知識を増やしています。

青森県の医療について2つ聞きたいことがあります。

1つ目は、青森県が独自に行っている新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策についてです。現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が世界規模で問題に

なっています。この青森でもいつ自分たちが感染するか分からず、不安があります。そこで、国が呼び掛けている3密を避けることや、手洗い、うがいをするなどなどの対策のほかに、青森県が独自に行っているものがあつたら教えてください。

2つ目は、青森県の医療体制についてです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で多くの医療従事者が仕事を辞めてしまう医療崩壊が問題となっています。これから、インフルエンザの流行と重なることが予想される中で、医療従事者の負担の軽減や患者の安全を第一に考えた医療環境づくりが求められると思います。このような非常事態であっても、医療従事者が安心して働けるような環境にするために、青森県ではどのような対策を考えているのか知事の意見を聞かせてください。



### (知事)

我々もちょうど悩んでいるところだったので、こうして一緒に悩んで学べることはうれしいです。

青森県民の皆さんは、マスクはもちろん、一番肝心な手洗いや手指消毒をやってくれているので、本当に感謝しています。

しかし、県内では、新型コロナウイルスに感染した方や医療関係者、各施設の方などへの誹謗中傷が多く、すごく困っていて、この誹謗中傷をなくすための対策に取り組んでいます。その中で、「あおもりオベーション」という取組を行っているので紹介します。

### (動画 「あおもりオベーション」 放映)

新型コロナウイルス感染症の怖いところは、人の健康や命を奪い、また、経済を奪ってしまうことです。しかし、一番怖いのは、みんなが心を奪われて、誰かを攻撃してしまったり、世の中が嫌になってしまったりすることです。ですから、みんなで力を合わせていこう、元気を出していこうということで、この取組を始めました。

それから、具体の感染症対策については、特設チームを作って様々行っていますので、それぞれ説明します。

### (防災危機管理課)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関する県の取組についてお話しします。

本県では、感染拡大を予防する「新しい生活様式」を定着させるために、いわゆるソーシャル・ディスタンスの定着を県民の皆さんにお願いしてきたところです。この取組を分かりやすく伝



えるために「離れる優しさ～あなたへのおもいやり～」のキャッチフレーズやロゴマークを作成して、県ホームページで公開しています。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響として、感染者やその家族、医療・介護・福祉関係者への誤解や偏見に基づく差別、誹謗中傷が社会問題となっています。県民生活への影響が長期化する中で、県民の不安軽減や、皆さんのような若い世代をはじめとする県民への感染防止に関する正しい知識の普及などが、今後ますます重要となります。

そのため、県民生活を最前線で支える方々への感謝や、感染者やその家族、対策に関わった方々などの人権への配慮、感染防止対策に関する県民の理解促進の気運を醸成するために、先ほど紹介した「あおもりオペーション」という取組を進めています。

また、8月28日からは、青森県LINE公式アカウントの運用を開始しました。今日現在で6,540人が登録していて、本県の新型コロナウイルス感染症対策に関する情報や緊急のお知らせ、注意喚起等を掲載しています。皆さんはもちろん、家族の方などでLINEを利用している方は、ぜひ友達の追加をお願いします。

### （保健衛生課）

医療環境に関する県の取組を説明します。

新型コロナウイルス感染症の対策は、インフルエンザの対策と一緒に考えていく必要があります。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザは、どちらも発熱の症状があり、見分けが難しいため、同時流行に備えた対策として、相談、診療、検査、入院医療体制を整えているところです。今後見込まれるであろう1日当たり約4千件の検査数に対応できるような体制の整備や感染者が入院できる225床の病床の確保に計画的に取り組んでいます。また、無症状者や軽症状者の人たちが利用する宿泊施設として130室を確保しています。

医療環境の支援として、医療従事者には、ありがたい気持ちを込めた慰労金の給付や深夜まで働いた場合の宿泊補助を、医療機関には、いつでも患者が入院できるようにあらかじめ病床をキープしておくための補助、看護師の防護服や入院患者の人工呼吸器、PCR検査機器を整備するための補助などを行っています。

### （知事）

いつクラスターが発生して、一気に感染が拡大するか分からないので、しっかり準備しています。

それでは、放射線技師になるための説明をします。



### （医療薬務課）

診療放射線技師は、医師や歯科医師の指示のもとに、一般エックス線撮影やCT検査などの放射線検査を行うことができる医療従事者です。これらの検査による画像は、医師ががんなどの病気を発見するための診断に活用されています。

また、放射線治療は、がんの有効な治療法となっていて、医師や看護師などの医療従事者と一体となったチーム医療を進める上で非常に重要な役割を担っています。

診療放射線技師になるためには、高校卒業後、診療放射線技師を養成する課程のある大学等で知識、技能を習得し、国家試験に合格する必要があります。県内だと、弘前大学医学部保健学科に放射線技術学専攻の課程があります。

就職先としては、県内だと主に病院などの医療機関ですが、健診センターなどで働いている方もいます。将来はぜひ本県で診療放射線技師として活躍してくれるとうれしいです。

### (知事)

県内で勉強して、そのまま働ける場所もあります。一度は県外に行っているいろいろ勉強してみるのもいいけれど、できればいつかは青森に戻ってきて、放射線技師としてみんなの命を守ってくれたらうれしいです。

医療の勉強はなかなか難しいかもしれないけど、今回の発言みたいに、社会問題を前向きに捉えてくれているから大丈夫です。頑張ってください。期待しています。

### (発言生徒3、2年男子)

私の将来の夢は海洋生物の研究をすることです。小学校の頃、浅虫水族館のジュニアクラブに所属して海の環境や生物を詳しく学んでいたことがきっかけで、海に興味を持つようになりました。

現在、青森県は多くの魚種で漁獲量が減ってしまっています。その原因は、大きな魚の餌となるアジやマイワシなどの魚が減少して、大きな魚が青森県に回遊してこなくなっているからではないかと考えています。現に、近年のアジの漁獲量は減少傾向にあり、マイワシの漁獲量もピーク時より約94%も減少して2万5千トンとなっています。青森の漁獲量を増やしていくためには、アジやマイワシなどの小魚を青森県の海に呼び込むことが大切であると考えています。そのためには、小魚の餌となるプランクトンを青森県の海に呼び込むことが大切であると、国立海洋研究開発機構の方から聞きました。

そこで、青森県の漁獲量を増やすために、次のような調査が必要だと考えます。青森県の海の2地点で、1つは対照区として自然の状態にし、もう1つは実験区として人工的に栄養を与え続け、植物プランクトンが生息しやすい状態にして、双方のプランクトン量を測定し、2地点でどれくらい集魚効果に違いがあるのかを調べる方法を提案します。青森県の漁獲量を改善するために、この提案について御検討をお願いします。



### (知事)

本当に勉強してくれていますね。ありがとうございます。

将来は、海洋生物の研究者になるのもいいけれど、できれば水産の専門家として県庁で働いてくれたらすごくうれしいです。

県では、山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全について、かなり丁寧に取り組んできました。例えば、雪解け水に落葉したブナの葉の栄養分が混ざり、そのまま川に流れていくことで、植物プランクトンの餌が豊富になっていきます。そうした県内の山の栄養分が、陸奥湾だけでなく、白神山地や八甲田山から日本海や太平洋にも流れていくような仕組みとして、1万1千キロの水路のネットワークを作り直してきました。要するに、途中で切れていた水路を整備して、栄養が畑や田んぼだけでなく海にもきちんと流れるようにしたり、自然素材を使用して水路を作ったり、それから、港湾や漁場を整備する時に、その先の海で藻場が再生できるような仕組みを作ったりしました。

小さな餌が植物プランクトンや動物プランクトンの餌になり、藻場があると小魚が来るようになって、さらには、アジなどが産卵に来てくれるようになります。実は今一番効果が出ているのはゴボウで、土にブナの成分が含まれるため、仕上がりが甘くてすごくおいしくなっています。



### (水産振興課)

本県の漁業についてお話しします。青森県は、西は日本海、東は太平洋、北は津軽海峡、それから大きな内湾として陸奥湾の4つの海に囲まれていて、非常に水産業が盛んなところとなっています。水揚げ量は、北海道、長崎、茨城、宮城に次いで、全国5位で18万4千トンとなっています。しかしながら、近年の漁獲数量は、ピーク時である1998年の84万トンと比較して4分の1前後まで減っている状態です。

そのため、県では、「攻めの農林水産業」として、水産業については、水産資源の変動のリスクを減らし、漁業者の所得を向上させていくため、2つの柱で取組を進めています。

柱の1本目はつくり育てる漁業の推進、もう1本は資源管理型事業の推進です。

つくり育てる漁業は、放流や養殖などの漁業であり、放流については、ヒラメ、サケ、サクラマスなどを放流しています。ヒラメは、100万尾の放流を続けていて、漁獲量も大体800～1千トンと安定しています。

それから、養殖については外海でも内水面でも動きが盛んになってきていて、今年デビュー予定の「青い森紅サーモン」のほか、ウニやナマコなどの養殖試験も行っています。養殖で本県にとって一番重要なホタテガイについては、陸奥湾で安定して生産していくために、生産プランを策定したり、漁業者に養殖管理手法を指導したり、ホタテガイの成長に影響を与えるヤマセについて調べたりしています。

つくり育てる漁業としては、魚のすみかを整えることも重要です。魚が生まれてから大人になるまでの成長に合わせ、漁場の浅いところには産卵や稚魚の育成の場となる藻場、中間のところには幼魚の育成場、もっと深いところには成魚が生息する魚礁漁場という形で、沿岸から沖合まで一体的に整備しています。

もう一方の柱である資源管理型漁業については、国の制度に基づき、適正な漁獲量の管理をしたり、操業の期間や区域を制限したりすることにより、持続的に漁獲を続けていくことを目的としています。

提案については、非常に興味深いものだと思いますが、自然の環境下で試験をすることは、少し難しいところがあります。例えば、試験では栄養素以外にも水温が非常に重要になるため、比較実験するためにはこれらの条件をそろえなければいけません。また、イワシなどの回遊する魚は水温の影響を大きく受けます。さらに、栄養素をまくことで植物プランクトンも増えますが、同時に赤潮の発生のリスクも出てくるので、その辺もよく考えながら進めていく必要があります。

なお、県の水産総合研究所では、プランクトンの指標であるクロロフィルを測定することでプランクトンの変動に目を光らせています。

漁獲量の変動対策は非常に大事だと考えているので、引き続き「つくり育てる漁業の推進」や「資源管理型漁業の推進」を進めていきます。

これからも、いろいろなアイデアがあれば教えてほしいですし、できれば将来は本県の水産にも関わってほしいと思います。

**(知事)**

きちんと資源管理をしつつ、養殖についても進めていきたいと思います。

将来、海洋を研究していくためには、海洋系や水産系の大学に行かなければいけません、勉強はどうですか。

**(発言生徒3)**

理系コースを選択していますが、理系の勉強が苦手です。

**(知事)**

基本的に授業で教わったことをきちんとノートにするといいと思います。将来は水産の専門家になってくれることを期待しています。

**(発言生徒4、2年男子)**

私の将来の夢は、青森市職員になることです。青森の街をもっと活気あふれる街にしたいと考え、日々勉強に励んでいます。

青森を訪れる外国人観光客は最近増加していました。青森がインバウンド誘致に成功した要因の1つは、地元の特産品を扱っている中小企業と県が連携し、ねぶた跳人体験と夕食プランなどの体験、滞在型プランを実現したことです。しかし、新型コロナウイルス感染症の騒動が落ち着くまでは、外国人観光客の誘致は難しいと思います。

そのため、今後は国内観光客の誘致に力を入れていくことが大切だと考えました。今までのような体験、滞在型のプランに加え、ジュノハートなどの青森独自の特産品を活用するのはどうでしょうか。楽しいイベントとおいしい特産品で青森の魅力を伝え、観光客を呼び込むことができます。また、現在、青森県で重視している観光客誘致のための政策も聞かせてください。よろしくお願いします。



**(知事)**

実は、来週から県産品と観光のPRで全国を回ります。これから県産米「青天の霹靂」の販売も始まるし、県外のイオンやマックスバリュでは青森フェアを展開していく予定です。そのフェアで披露する「決め手くんが行く！青森県特産品キャンペーン」バージョンをお見せします。

(「決め手くんが行く！」ダンス披露)

このようなキャンペーンをしながら、青森にはおいしいものも綺麗なところもたくさんあるから、青森に来て一緒に楽しもうとPRしています。



### （総合販売戦略課）

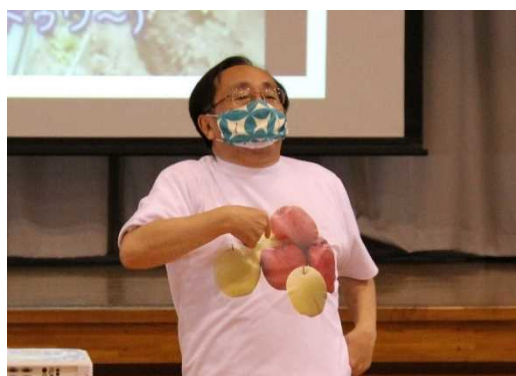
青森県は、りんご、ごぼう、ホタテガイなどが全国1位、ながいも、マグロなどが全国2位など、全国トップクラスの収穫量や漁獲量を誇る農林水産物の宝庫となっています。

また、お米では青森県で初めて最もおいしいランクの「特A」評価を受けた「青天の霹靂」や今年全国デビューしたハート型のさくらんぼ「ジュノハート」、それから、間もなくデビューする「青い森紅サーモン」など、全国の皆さんに知ってもらえる青森ブランドとして育てる取組を行っています。

青森県の農林水産物をより多くの人に知ってもらうために、青森産品情報サイト「青森のうまいものたち」、フェイスブック、インスタグラムなどでPRをしていて、県産品の魅力や買えるところ、食べられるところのほか、郷土料理などの情報も発信しています。

### （知事）

そのほかにも、私が県産品の柄のブレザーやTシャツを着て、「青森県産品はおいしいよ」とPRしています。



### （総合販売戦略課）

県内のスーパーをはじめ、東京、大阪、遠くは九州、沖縄と、全国各地でPR活動をしていて、知事も直接、消費者に安全・安心で優れた農林水産物をPRし、青森県産品の消費の拡大を図っています。今年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、ステージパフォーマンスがなかなかできませんが、PR動画を作成して県産品の情報発信をどんどんしていく予定です。

### （誘客交流課）

県内に観光客を呼び込むための県の取組について説明します。

青森県には、素晴らしい景色や祭り、海の幸、郷土料理など、全国に誇れる観光資源がたくさんあり、より多くの観光客に本県に来てもらえるように、国内外でPRしてきました。

ところで、青森県が誇るソウルフード「味噌カレー牛乳ラーメン」は、約30年前、皆さんの先輩である青森南高校の生徒が考案したメニューと言われています。当時、いろいろなメニューの組み合わせが流行っていて、ある生徒が味噌とカレーと牛乳を組み合わせたのが「味噌カレー牛乳ラーメン」の発祥だそうです。

話は戻りまして、以前は奥入瀬渓流や弘前城などの有名観光地だけを巡る方が多かったのですが、最近では、青森県らしい体験ができるコースが非常に人気となっています。例えば、種差海岸でのヨガ体験、奥入瀬渓流での苔さんぽ、弘前市でのこぎん刺し体験など、幅広い体験ができることも本県の魅力の1つです。体験メニューの充実によって、本県での滞在時間がより長くなり、リピーターの増加にもつながることから、今後も様々な方と連携し、全国各地で紹介していきたいと考えています。

また、観光客の誘客を図るために、全国の旅行会社を訪問し、青森県向けの旅行商品を作ってもらったためのセールス活動を行ったり、旅行会社やJR、航空会社を対象にした魅力紹介の観光セミナーなどを実施したりしてきました。

県外からたくさんの観光客に来てもらうだけではなくて、県民にも県内のいろいろな観光資源を知ってほしいという思いと、新型コロナウイルス感染症によって厳しい環境下にある県内の宿泊施設を応援したいという思いから、「泊まって応援、旅して発見！あおもり宿泊キャンペーン」を実施してきました。参加している宿泊施設は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、地域や施設の魅力を生かし、地元ならではの体験や特産品などを組み込んだ宿泊プランを企画し販売しています。例えば、日本一を誇る大間まぐろと大間牛の食べ比べプラン、十和田湖の雄大な自然を肌で感じながら貸切ボートで遊覧体験を楽しむプラン、青森県産のりんごジュース・ジャム・はちみつをセットにした「りんご三昧」のお土産付きプランなどがあります。

今後は、県外からのお客様も対象とするキャンペーンを実施することで、本県の魅力を生かしながら、県外からの観光客の誘致を図ることとしています。

青森県には、素晴らしい観光資源がたくさんあります。皆さんの周りにも、本当はすごい観光資源なのにあまりに身近すぎて気が付かないといったことがあるかもしれません。

10月11日からは「あおもり宿泊キャンペーン秋・冬版」も始まります。皆さんが住んでいる地域を見つめ直すと新しい発見があると思いますので、このキャンペーンを機に、ぜひ、県内各地へ足を運び、自分の目で見て、実際に触れて、青森県を体感してみてください。

#### (知事)

来週から「あおもり宿泊キャンペーン秋・冬版」を始めて、県内のみならず県外からも観光客を呼び込もうと考えています。それから、今まで使われてこなかった観光コンテンツや、地元の人しか知らなかったコンテンツなど、我々がごく当たり前と思っていたけれど、ほかの地域の人からすると実はすごくびっくりするような風景や食べ物をもう一度集め直してPRすることを考えています。



将来の夢のために、どんな勉強が必要だと思いますか。

#### (発言生徒4)

まずは自分の目の前のことから1つずつやっています。

#### (知事)

毎日の授業をしっかり受けて、いっぱい勉強することが大切です。頑張ってください。

#### (司会)

それでは、今回の意見交換を通して、知事から感想をお願いします。

#### (知事)

今回、皆さんの提案や質問を聞きましたが、それぞれ今の社会のことを自分のこととして見つめてくれていると感じました。若いうちに幅広く物事を見たり感じたりして、自分の生きる道を探して行ってほしいと思っていて、この学校は、皆さん一人ひとりが勉強しながら、自分自身の将来の

道を目指して、チャレンジしていけるような環境にあると思いました。今日の意見交換の内容も、すごく斬新だったし、参考にしたいものもありました。

一人ひとりが、この青森だけでなく、この世界の中心になっていきます。その君たちが、大らかな気持ちで、大切なことをしっかりと考えて、それぞれ歩んでいこうとしていることを何よりもうれしく思いました。人は宝です。宝である君たちがこれからもチャレンジしていけるように、その基盤を丁寧に整えていきたいと思っています。

今日は本当にありがとうございました。

